

ディスカッション

大学の授業において、ディスカッションはとても重要です。大学は主体的な学びの場であり、どのような授業形態であっても知識を得るだけでなく、それについて自ら考え、理解を深め、発展させることが必要だからです。ディスカッションは、そのような大学での学びをサポートする実践方法の1つです。

ディスカッションの目的は、自分の考えを論理的に発信し、他の人の考え方や感じ方を傾聴し、議論の中で論理の矛盾や論証の不足などを指摘しあい、発展応用することです。実りのあるディスカッションにするためには、心がけたい点があります。

01 意見を述べる時は、必ず根拠を示す

自分の意見を述べるだけでは説得力に欠けます。そこで、必ずその根拠を示しましょう。たとえば、「就活ではコミュニケーション力が必要だ」と言うのは、自分の意見を述べたにすぎません。それに、「〇〇による調査データ『2017年新卒採用徹底解剖』によると、企業が新卒学生に求める能力の1位がコミュニケーション能力で83%に及び」と付け加えることにより、説得力がでます。いつも事実を示せばよいですが、難しい場合は例をあげてもよいでしょう。「〇〇先輩によると、就活の面接では必ずグループディスカッションがあった」と聞いた話を付け加えることによって、意見のサポートをすることもできます。

02 人の発言を聴く

ディスカッションでは他の人も発言しますので、その人の意見を汲み取るためによく聴きましょう。ここでいう「聴く」は、「聞く」（ヒアリング）ではなく、「聴く」（リスニング）です。他の人に関心を持ち、真意をしっかりと受け止めようと積極的に話し手の発言を聴く態度が大事です。これを積極的傾聴（アクティブリスニング）とも呼びます。話し手の意見の要点をつかみ、自分の意見と比較しながら考えをまとめていきましょう。

03 話を整理する

自分の意見を述べ、他の人の意見に耳を傾けても、人の感じ方・見方はさまざまです。ディスカッションに参加している人が納得するためには、「見える化」を行って議論を整理してみましょう。付箋を使った方法を紹介합니다。それぞれの意見を付箋に書いて参加者全員が見える場所に貼っていきます。そこで似た意見をグループ化していきます。見える化によって、いつでも論点に沿った議論ができるだけでなく、議論をまとめて整理することで、参加者の認識を共有することができます。付箋はディスカッションにとっても有効なのですが、ない時はいらぬ紙に書いて机の上に置いてみるだけでも話が「見える化」できておすすめです。

この3点以外にもいろいろありますが、まずはこれらを意識してディスカッションに参加してみましょう。より生産的なものとなるはずですよ。